

# 変異し続ける新型コロナウイルス。 特に高齢者や基礎疾患<sup>※</sup>のある方は感染予防を。

オミクロン株「XBB系統」が現在流行の主流

最近新たに出現したオミクロン株「XBB系統」は、これまでの変異株とどう違うのか、いま私たちはどう対策するべきか、岸本さんが松本先生にお話をお聞きしました。

かぜや  
季節性インフルエンザと  
同じとはいえない

岸本：新型コロナウイルス感染症は普通のかぜや季節性インフルエンザとどう違うのでしょうか？5類に移行したことで、「もう普通のかぜと同じでは？」と思われる方も多いと思います。

松本：オミクロン株の流行以降、重症化率が低下し、以前ほど恐れるべき感染症ではなくなってきたのは事実です。ただし、特に高齢者や基礎疾患<sup>※</sup>のある方は重症化したり<sup>②</sup>入院が必要になったりすることがあります<sup>③</sup>ので、かぜやインフルエンザと同じとは考えにくいと思います。さらに新型コロナウイルスで問題となるのは後遺症です。新型コロナウイルスに感染した方のうち、33%が診断から1年経つても何らかの後遺症に悩まされていることが報告されており<sup>④</sup>、日常生活への影響を考えると深刻な問題です。

「XBB系統」に対する  
警戒は今後も重要

岸本：新型コロナウイルスはよく変異が起ると聞きますが、何が問題なんですか？

松本：変異が起ればウイルスの性質が変わることがあります。例えば、感染力が強くなつて多くの方に感染するようになったり、免疫逃避<sup>⑤</sup>といって既に感染した方でも再感染する可能性があります<sup>⑥</sup>。また、今後、変異によって重症化率が高まることも懸念されます<sup>⑦</sup>。

岸本：最近また新たな変異株が出てきていると聞きました。どのような特徴があるのでしょうか？

松本：現在国内ではXBB系統による感染が主流となっています<sup>⑧</sup>。XBB系統は、2種類のオミクロン株が組み合わさって生まれた変異株で<sup>⑨</sup>、過去の感染やこれまでのワクチン接種で獲得した免疫を回避する可能性があると考えられています<sup>⑩</sup>。XBB系統による感染で重症化率の増加は認められていませんが<sup>⑪</sup>、特に高齢者や基礎疾患<sup>※</sup>のある方など、重症化しやすい方は今後も警戒が必要です<sup>⑫</sup>。

ワクチン接種の検討を含めた感染予防の継続を

松本：新型コロナウイルスが5類に移行したといっても、ウイルスが変わったわけではありません。高齢者や基礎疾患<sup>※</sup>のある方は重症化しやすく<sup>⑬</sup>、若い世代でも後遺症が問題となります<sup>⑭</sup>。今後も新型コロナウイルスの流行はしばらく繰り返される可能性が高いので<sup>⑮</sup>、特に重症化しやすい方は、感染対策の一つとしてワクチン接種を検討していただきたいと思っています。

岸本：この感染症をよく理解して、自分に必要な対策を行うことが大切です。

※慢性疾患などで、合併症を併発したり、他の疾患への罹患時に重症化しやすいなどのリスクを持つもの。具体的には、高血圧、糖尿病、がん、慢性の肺の病気、慢性閉塞性肺疾患など。慢性の腎臓の病気、心臓の血管の病気、心筋こうそく、狭心症など。脳の血管の病気、脳こうそく、脳出血など。HIV、ヒト免疫不全ウイルス感染症、臓器移植による免疫不全など。

これからも  
基本的な感染対策を  
続けましょう



国際医療福祉大学医学部 感染症学  
主任教授 松本 哲哉 先生

対 談

女優  
岸本 加世子さん

1) 厚生労働省：第111回令和4年12月21日新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード資料4 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001027743.pdf>) (2023/8/1閲覧) 2) 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き 第10.0版 3) 厚生労働省：療養状況等及び入院患者受入病床数等に関する調査について ([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage\\_00023.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00023.html)) (2023/8/14閲覧) 4) 厚生労働省：厚生労働科学特別研究事業 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の長期合併症の実態把握と病態生理理解明に向けた基礎研究 令和3年度 総括研究年度終了報告書 研究代表者 福永興志 令和4(2022)年4月(2023/8/14閲覧) 5) 国立感染症研究所：SARS-CoV-2変異株について (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2551-cepr/10745-cepr-topics.html>) (2023/8/14閲覧) 6) 国立感染症研究所：新型コロナウイルス感染症の直近の感染状況等(2023年7月7日現在) (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/12147-covid19-ab123nd.html>) (2023/8/1閲覧) 7) 国立感染症研究所：感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株について(第26報) (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2551-cepr/11879-sars-cov-26.html>) (2023/8/1閲覧) 8) Yamasoba D. et al. Lancet Infect Dis. 2023;23(6):655-656. 9) 厚生労働省：第110回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード(令和4年12月14日)資料3-11-① ([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00395.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00395.html)) (2023/8/2閲覧)

